

平成 24 年 5 月 31 日から、山口市阿東徳佐下の（有）船方総合農場で、畜産技術部との連携による付加価値の高い牛肉生産を目指した新たな山口型放牧の取り組みを開始しました。

今回当部が貸し出した 4 頭は、これまで山口県のレンタカウとして耕作放棄地の解消など地域に貢献してきた牛で、夏の間放牧した後、予備試験として山口県独自の希少性の高い牛肉生産技術を確立するための肉質調査等を行う予定です。

山口県に貢献してきたレンタカウを貴重な牛肉資源として有効活用する試みは今回が初めてで、今後は山口県プレミアム牛肉生産技術として確立し、地産地消を目的に県内での生産を拡大していきたいと考えています。

なお、船方総合農場では平成 22 年の国内口蹄疫の発生以来、来場客には牛を触れさせない防疫対策を徹底しており、来場客からは牛の放牧を見たいという要望が多数寄せられているようです。

ぜひ広い草原の中で牛が優雅に草を食んでいる放牧風景を見て心を癒されてはいかがでしょうか。



放牧地へ到着



放牧開始直後の様子